

## 集団における個の人格変容～特にヒップホップダンスを事例として～

### "A study of character transformation of individual in group

### ～ Especially, a hip-hop dance as a case study ～ "

1K06B502

石渡 友美

指導教員 主査 宮内 孝知 先生

副査 杉山 千鶴 先生

#### 【研究の動機・研究方法】

幼児期から青年期にかけ一度形成された人格は安定し、変化しづらいと考えられている。しかし、筆者は人格が変化する経験をした。本研究ではこの変化をきっかけとし、変化を与える要因を明らかにすることを目的としている。変化を与える要因として、ヒップホップダンスを行う集団に着目した。実際に筆者のヒップホップダンスの経験から、自他共に明確にわかる人格の変化があったからである。また、研究方法として文献研究であるがインタビュー調査をも参考にした。

#### 【各章の要約】

第1章では、本研究で集団の事例としてあげたストリートダンス及びヒップホップダンスの特性をまとめ、理解を目指した。具体的にはストリートダンスの種類や歴史、そして実態を中心にまとめ、ストリートダンスの意味するものを明らかにした。また、スポーツとストリートダンスの比較検討し相違点をまとめることで、ストリートダンスの特性を示している。

第2章では、人格への影響を与える要因についてまとめた。この要因として考えられる理論を参考とし、ヒップホップダンスに見られる傾向と比較検討することでヒップホップダンスにおける人格変容の要因を考察している。また、ヒップホップダンスと個や集団の関わり方について具体例をあげ、まとめている。ヒップホップダンスと個にはバトルを、ヒップホップダンスと集団の関わり方ではショーやコンテストを

事例としてあげ考察した。さらに、ヒップホップダンスと個人、そして集団の相互関係もまとめた。この章では、個人との関係は自分自身を見つめ合うことであり、集団との関係は感情を伴う深いコミュニケーションであると提言している。

第3章では、インタビュー調査の結果と考察を行った。実際にヒップホップダンスを行っている者が集団の中でどのような変化をしたのかを明白にすることを目的とし、現役ヒップホップダンサーを対象としたインタビュー調査を行った。その結果から、集団における個の人格に関する変化や要因として考えられるものを分析した。複数のメンバーで1つの作品を作り出すダンス制作過程において、内面にあるイメージを相手に伝える必要性を要因とし、自己主張ができるようになったり協調性が高まったりと、人格が変容した結果がでている。また、ヒップホップダンスで1つの作品を作り出すという目標を持った集団では、結果につなげたい、貢献したいと感じ、自分の得意分野を集団の中で積極的に行うことも明らかとなった。この調査は、ヒップホップダンスにおける人格変容を扱った文献がなかったため、本研究にとって貴重な資料となった。

第4章では、この研究のまとめとしてヒップホップダンスを行う集団において個が受ける影響の要因をまとめた。ヒップホップダンスを行う集団では、日常生活や他のスポーツ以上に個々の内面にあるイメージを複数のメンバーで共有し1つの作品を作り上げるためのコミュニケ

ーションが必要とされている。そのため、集団の中で深いつながりが必要とされより多くのコミュニケーションが必要とされるようになる。このコミュニケーションとは単に伝え合うだけではなく多くの感情を伴うコミュニケーションとなり、個々の感性を相互に刺激しあう。その結果、よりその人らしい個性のある人格を形成していくこととなる。一度形成され安定した人格は変化しづらいが、主体的に行う身体活動、その中でも特にヒップホップダンスのように個性のぶつかり合い感情移入しやすい活動を通じ、人格は変化することができるのである。